

皆さん、大阪の市営地下鉄がなくなったのをご存知ですか？ 大阪維新の会が政権取って、「親方日の丸では絶対倒産しない。それではサービス向上しない」という事で民間企業にしたので、現在は大阪メトロと言います。それでやる気が出たのか、トイレを新しくする事から始まって、色んな取り組みがありました。

その内の1つがホームページの充実で、英語のも作ったのですが、それを見た方からクレーム。堺筋線（さかいすじせん）、これを英語で Sakai Muscle Line と訳したんです。筋（すじ）を筋肉と訳して、サカイ マッスル ライン。整骨院かと。堺筋線の天下茶屋（てんがちゃや）という駅、これを World Tea House（ワールド ティー ハウス）。固有名詞を直訳しても…。

この集会の近所の北田辺（きたたなべ）はどうなるんですか？ North Ricefield Side（ノース ライスフィールド サイド）略して NRS。「あなたの集会の最寄り駅はどこですか？」「NRS です。」カッコイイ！ みたいな。固有名詞はそういう風にしたらダメなんです、人工知能に任せて自動翻訳にした結果、おかしい事になったと言われています。だから、人工知能がすごいと言っても、まだ限界がある事が分かりますね。

今日のテーマは『ユーアンゲリオン 3つの要素』。

ユーアンゲリオンとは、現在は「福音」と訳されている言葉。元はギリシャ語で「勝利のお知らせ」。「遂に勝ったぞ！ もう不安はないぞ！ 我々は勝利者だ！」という良き訪れ・いいニュース・勝利のニュースの事。日本語で「朗報」。これを「福音」と訳したのは冴えてる！ 素晴らしい！ と思って調べたら、中国語の聖書の翻訳を拝借しただけという事が分かりました。

福音の福は「祝福」・音は「音信」。祝福の音信（手紙）。「私たちがもはや解決不可能と思っている問題を、神が代わりに全部解決して下さったんだよ」という音信。

人間で、罪の解決を持っている人は誰もいません。罪人でない人は誰もいない。死なない人は誰もいない。死と罪の問題から自分を解放するために、何らかの力を持っている人は誰もいない。でも、嘆く必要はないのです。「神があなたに代わって、罪の問題も死の問題も全部解決し、救いを準備して下さった。後はそれを受け取るだけでいい」という知らせ。福音は何度話しても飽きません。よくよく考えたら、毎回同じ事を言っているんですが、飽きないです。

今日は、福音を論理立てて語っている箇所を一緒に考えたいと思います。

I テモテ 2:4-6 神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。神は唯一です。神と人との間の仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです。キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自分を与えてくださいました。これは、定められた時になされた証しです。

ここで神とは一体どんな方なのか、3つのポイントで語っています。

①神は創造主 ②神は罪に対して裁きを宣告する方 ③同時に神は救い主

まず、**I テモテ 2:5** 神は唯一です。

聖書が語っている神は、何度も言っているように、人が作った神ではなく、人をお造りになった方。あなたの作者。あなたの魂のルーツ。

あなたに人生の目的・夢を託すようにして、この世界に送り出して下さった方。創造主なる方がおられる。

昔、集英社から『青春と読書』という雑誌が発行されていて、私は定期購読者でした。本に関する雑誌、いいですね。毎日何十冊と色々な種類の本が出ますが、「これ読んだらいい」という本を推薦してくれる。

その雑誌に、保守ジャーナリストの櫻井よしこさんがインタビューする対談の連載がありました。対談相手は全員科学者。日本の科学者は殆どが、進化論の立場に立って世界を理解しています。

「生命は気紛れにパッと湧いて来て・気の遠くなるような時間を経て・次々と独りでに変化して・遂に人間になった。人間は神によって造られたのではない。神の力なんか借りなくても、人間は独りでに出て来たもの。進化したのだ」という考え方の科学者が多い。全員ではありません。でも、そこに登場する方の殆どは進化論者です。

その研究者たちと話をして、研究内容を非常に詳しく説明される度に、「神がいるとしか思えない!と考えてしまう瞬間がよくあった」と彼女は書いています。

例えば、東京理科大の田沼さんだったか、細胞のアポトーシスという研究をしている方。昔は、人間の身体は60兆の細胞で出来ていると言われていたけど、最近37兆だそうです。細胞は毎日4000億死んでいる。私たちはトイレで大をしますね。しない人いないでしょ。ウンチの中で食べかすは2割くらい。残りの8割は、腸内細菌の死骸と腸の内壁の細胞の死骸。だから、出て行ったのは「あ、細胞や…」。別に、手に取らなくてもいいんですけど。

人間の身体は、細胞がたくさん死んでいっている。その細胞の死の中に、アポトーシスという不思議な死に方があるのです。それは自殺。「病気をしたので・火傷をしたので・手を切ってしまったので、それで死んだ」ではなくて、自ら死を選ぶ細胞がある。その死に方をアポトーシスと言います。普通の細胞は生きようとするのに、自ら死を選ぶ細胞とはどんなのか？

例えば、おたまじゃくしがカエルになる時、しっぽの部分がいつの間にか消えてる。しっぽは自死したんです。「カエルになった時、このしっぽ、邪魔だよな。いいです。去ります。」それでパッと消える。これは、人間の指の形成に於いても言えます。人間の胎児の手は、元々野球のミットみたいな形。ところが、やがて指になる部分を残して、指と指の間の細胞が死んでくれるので、見慣れている指の形になるんです。

「それなら、元々ちっちゃいサイズの指ができて、それが大きく成長するのでもいいじゃないか」と思うけど、研究者に聞くと、指にならない所の、やがて死んでくれる部分は、本来指になる部分に、万一異常があった時に代役を果たすという役割を担っている。スタメンが故障した時に、控え選手が代わりにプレーするみたいなものですよ。スタメンが故障しなかった時は「あ、出番ないか…。去ります」と言って消えて行く。櫻井さんは「この心が、今の日本人には欠けている」と。

本来指になる細胞に異常があった時、万一に備えて、コレがだめならコレと二重・三重・四重に前もって準備されている。その時に彼女は「本当に偶然でこんな事があるのか？何か神のようなものを感じずにはおれない。つい、神を感じてしまう。」「つい」じゃなくていいです。

この世界をお造りになった方、私たちを・いのちをお造りになった方は、人間を健やかに生かそうとして、実に様々な作戦と配慮を持って、私たちを作成して下さっているのが分かります。

優れた作品には優れた作者がいるはずで、聖書によると私たちの作者・設計者は創造主。ただ、この創造主は、ただ造っただけの方ではありません。

息子は日曜学校の担当をしていて、今も多分やっていると思います。私も日曜学校の先生をやった事があるし、小さい時は日曜学校の生徒でした。針中野（はりなかの）の駒川（こまがわ）商店街にあった小さな教会。自分がクリスチャン・伝道者になった時、報告に行ったら、かまぼこ屋さんになってました。「この人、どこに行ったんですか?」とおばちゃんに聞いたら「そんなん知らん。」「キリストとか聞いた?」「いや、キリスト聞いてませんわ。」
(* ドアチャイムが鳴って) 今のピンポンで、何を話すのか忘れてしまった…。

とにかく、子供たちに色々話した事があるので、子供たちの気持ちも分かるかなとやっていたのですが、突然来た子は黙って話が聞けない。騒ぐので、この子に質問してみました。参加型授業というか。「キミ、死んでも大丈夫? 死んだら天国に行けると思う?」「ボクのおばあちゃんに教えてもらってます。人はいい事したら天国に行くけど、悪い事したら地獄に行きます。ボクはいい事も悪い事もしてるから、中国に行きます。」真ん中よ。

日本人の罪の感覚ってそうじゃないですかね。「まあ、人間だから不完全だけど、大した事ないよ。」
「神様は親切で愛だから赦してくれる。」しかし、神様は義なる方です。そして愛と義は、ある意味で矛盾しません。

もう亡くなりましたが、大橋巨泉（おおはし きよせん/1934-2016 昭和9-平成3）という人がいました。「はっぴふみふみ」。彼のお父さんは東京で、ロレックスなどスイスの高級時計を輸入する仕事をしていて、アメリカに何回も行き、その大きさ・すごさ・国力を見ていたので、戦争が始まった時「絶対負ける。勝てるはずがない。東京も狙われる。」それで、千葉県の下田に自発的に引越しました。

巨泉少年は舶来の色んな物、いいカッコしいみたいに使われて「おまえ、東京から来て何かちゃうな。」そして、ちょっとした行き違いでいじめが始まりました。それがもうしつこくて・度を過ぎて・いつも生傷が絶えない。あまりにもひどかったのですが、お母さんを心配させたらいけないのでこらえてた。

ところがある時、左足の骨を折られるんです。引きずって帰ったら、お母さんが「いつもの子か?」「いや、別に」とか言うのですが、普通に起こるような怪我じゃない。「ちょっとアンタ、こっちおいで」とそのまま一緒に、いつもいじめている子の家に行って、両親を呼びました。そして「今度うちの子に何かあったら、お宅のお子さんを殺して、私も死にます。」
お母さんは、いわゆるキーっとなる人じゃない。非常に冷静に、でも確固たる決意を持ってそう言った

なぜそのように強く怒る事ができたのか? 1つには、自分の子供を本当に愛しているから。
親として最後にできる事は何だろう? 覚悟して抗議する事だ。「もし殺したら、私自身も罰を受けます。恐ろしい悪い事だから。」つまり、悪を悪として罰する事は悪い事ではない。
人間の中でもそういうものがないと、精神のバランスを崩してしまう事があるんじゃないですか?

2月にポーランドとイスラエルに行って来ました。ポーランドではアウシュビッツ収容所にも行って、色々お話を聞きました。ポーランドにはアウシュビッツ以外にも、幾つかの恐ろしい収容所があって、マウトハウゼン収容所から1人のユダヤ人が生還します。サイモン・ヴィーゼンタール（1908-2005）。知る人ぞ知る、ナチハンターと言われている人。

ナチスドイツが支配したエリアでは、その手先や協力者として、メチャクチャな戦争犯罪を行った人、殺した人の数がちょっと違うというか、恐ろしい事をやった人たちがたくさんいます。戦後、彼らの中の指導者たちは罰を受けたか？ もちろん受けた人もいるけど多くはない。ナチ戦犯は、別人になりすまして南米に高飛びし、世界中に潜伏して、普通の一市民として生活しているのです。あれだけの事をしながら、なぜそんな事が…？

ナチ戦犯の中には、ものすごい科学技術を持った博士や科学者たちが大勢いました。戦後、ミサイル・ロケットの技術で群を抜いていたのはアメリカとソ連です。ナチスの科学者の知識を使ったから。第二次世界大戦末期、日本はまだゼロ戦でプロペラ戦闘機を飛ばしている時、既にドイツはジェット戦闘機を開発していました。それを実用化する前に戦争が終わったけど、色んな先進国より一歩先んじていたのがナチスの科学者。戦後、アメリカもソ連もこの技術が欲しくてたまらない。

そこで、「ナチ戦犯の訴追を免除するから俺の国に来い」と、両国でナチスの科学者を山分けしたんです。彼らの知識・技術によって、戦後、アメリカとソ連がグンと科学技術を伸ばしていったという事。誰がそうなのかはよく分かりません。しかし、ナチハンターの人たちは「そんなの関係ない。」彼らは、別人になりすまして活躍し、或いは一市民として生活している人を、地の果てまで追いかけて捕え、イスラエルに連れて来て、公式の裁判に立たせて審判を受けさせる、という事のために走り回っています。

そして、このヴィーゼンタールがアイヒマン（1906-1962）を見つけたのです。その情報をイスラエルのモサドに伝え、モサドが彼を拉致してイスラエルに連れて来た。しかし、捕まえようとした人の中には、アメリカやソ連が匿っている人たちもいて、その場合は、当然そこから圧力がかかり、色んな妨害や踏みつけ・苦しい目に遭うのですが、それでも今でも活動して、何が何でもナチス戦犯を捕えて裁判に立たせるのです。

なぜそこまでするかというと、個人的な恨みではなく、2つの理由のため。

①裁判で公に裁く事によって、公文書に犯罪が記録されるから。歴史というのは、どんなにすごい事があっても、公文書に記録されないと時間と共に風化する。全部忘れ去られて、100年も経てば知っている人は皆死に絶え、「それは嘘だ。そんなひどい事があつたはずがない」となりかねない。裁判なら弁護士が付いて、一生懸命論駁しようとする。その論駁を論駁するために、また資料が出て来る。誰もひっくり返す事ができない公式文書に記録する事によって、後世にそれを残し、ユダヤ人が二度と迫害されないための予防策にするのです。

②ユダヤ人大迫害の中で生き残った人たちは、生き残った事をずっと恥じていました。「なぜ抵抗しなかったのか…。」仲間が死んでいったのに、自分だけが生き残った事で自分を責め、家族にも酷い体験を殆ど言わなかった。彼らが口を開いたのは、戦犯が捕まり、裁判で目撃証言が必要になった時です。

「悪が罰せられる事なく、世界のどこかに潜んでのうのうと生きている」と考えた時、「またやられるかもしれない」という恐怖感があって、本当の意味で解放されない。悪は悪として罰を受ける。目の前で悪が粉碎され、審判を受けているという姿を見る事によって、初めて、暗い過去から・呪縛から解き放たれる事ができる。「どんなに大きな罪があつても、罰は来ない事もある」という事がまかり通っている以上、被害者はただ黙るしかなく、胸を張って立ち上がる事ができません。

目の前で、「悪は必ず罰を受ける。罪には裁きがある」のを見る事が、癒しに必要なプロセスなのです。

圧倒的な絶対悪が、何の罰も受けずにのうのうとのさばっているのを見たら、やっぱり気持ちが悪い。ましてや、正義の審判者である神様が罪を断罪されるのは当然です。

しかし同時に、**I テモテ 2:4 神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。**

神が望んでいるのは、人が裁かれる事ではなく救われる事。罪から救われる事。罪の究極の結果である死後の裁きから救われる事。創造主の元に立ち返って来る事。神と親子関係の中に入る事。

「神は人が救われるのを望んでおられる。」

「この言葉に心揺さぶられた」と言う方と先日会いました。先週、北関東のある地方に行ったら、私は初対面ですが、「YouTube 見てます!」と言う方が自己紹介で「オオサンショウウオの〇〇です。」

そういう風に言われたら、丸い形の…見えん事もない。「オ、オオサンショウウオですか?!」

でも非常に立派な方で、元市役所の建設課のトップ。という事は、その市の公共事業のトップ。

公共事業、相手は役所・地方自治体だから、支払いが滞る事はありません。「こんなおいしい仕事はない!」という事です。

公共事業では入札をやりますね。役所に業者が入札を入れて、1番安い所がその事業を取る。

極めて単純・簡単と思うかもしれないけど、それは建前。実は地方の公共事業というのは、発注する役所と契約を取って仕事をする業者以外に、もう1つのポイントがあります。それは首長(くびちょう)。組長じゃないですよ。知事。知事も政治家だから選挙パーティをする。支援者が必要。政治献金が必要。首長は役所よりも上です。企業は首長よりも、ちょっと力があるみたい。でも、役所は企業よりも強い。ジャンケンかよと。グーチョキパーの世界みたい。

そういう中で彼は、法律には触れないけど、法スレスレのところを約40年間。出世すればする程、法には触れないが、人としてはやりたくない事をやらざるを得ない。「入った時は若鮎のように清らかな、ピチピチしていた私が、今やヌメヌメしたサンショウウオです。」それでサンショウウオか。

「でも、ある本を読んで神の心を知ったんです。」それは、さだまさしの本。聖書ちゃうんかと。

さだまさしさん(1952 S27-)が井伏鱒二さん(いぶせ ますじ/1898-1993 M38-H5)の家を訪問する事になりました。井伏鱒二、分かりますか? 日本文壇最後の最高峰と言われている人。日本の作家で、漱石とか芥川とか太宰とか色んな人が出ましたが、最後の最高峰で、峰の中でも突き抜けているような作家。私も高校の時に『黒い雨』という小説を読みました。原爆の後、黒い雨が降って来る。その描写があまりにも鋭かったので、忘れる事ができません。

当時カセットブックが流行っていて、井伏さんが書いた詩をさださんが朗読し、それをカセットにして売るという企画でお宅を訪問しました。そしたらなんと、大作家の家の表札が広告の裏紙。裏紙に「井伏」と書いて画鋏で止めてある。皆次から次に表札を盗むんですって。もう、紙でいいと。

この家に、壇一雄(だん かずお/1912-1976 M45-S51)や太宰治(だざい おさむ/1909-1948 M42-S23)らが皆通っていたんです。

井伏鱒二さんの処女作が『山椒魚』(さんしょううお)。『山椒魚』読んだ事ある方? こんだけおって4人も。ありがとうございます。簡単に言います。

岩があって、窪みがあって、穴がある。そこに山椒魚が入って行ったら、日陰で、丁度いい湿り気があって「居心地ええわ。」

寝そべって「もうちょっと、ここにおろか。面倒くさいし、ここにおろか」と暮らしている内に、成長して大きくなり、出られなくなった。出ようとしたら頭がつかえて「うわっ! 出られへん!」という情けない山椒魚の話。20歳（はたち）の時に書きました。

目の前を魚がスーッと気持ち良さそうに、蛙がピューッと泳いで行く。「おい、出られへんのか?」と言われて「ナニ言うてんねん。不自由の中にこそ自由がある。」言い返すけど、「出られへん。辛い。辛い…。」

そんな事、ありませんか? やめたいのにやめられない事とか。「はよ、謝っといたら良かった…。ここまで話し大きくなったら、今更引き返されへん」とか。初めに手を打てば良かったのに、面倒くさいと放ったらかしたために、どうにもならなくなった事とか。

そういう経験がある人は、山椒魚を読んだ時に「オレや!」。で、彼は「ああ、俺や…。」

その内、何かの間違いで、蛙がヒュッと穴の中に入って来た。「あ、間違えた。出よう。」その時、山椒魚が体をぐにゅっと回転させて、頭で出入り口を塞ぐんです。蛙が「出してくれよう。」「アカン! お前、俺がどんだけ困っているか分かるか? 俺には解決がない。お前も同じ状態になってくれ。」

「出せよ!」「出せへん!」蛙と山椒魚が睨み合って1年。両方とも喋らない。2年経過。

そうこうしている内に「はあ…」と蛙のため息が聞こえた。山椒魚が「お前、今、ため息ついたやろ。」蛙が「俺、もうダメだわ。2年も食ってない。腹減り過ぎて、もう動かれへん。もうすぐ死ぬと思う。」

「そんな…。もう出ていいぞ。出ろよ。」でも、もう出る気力がない。体が全く動かない。

その時から、山椒魚が後悔するのです。「追い詰め過ぎた。ひがんで、弱い者イジメしすぎた。

ここまでするつもりなかったのに、死なせるところまでやってしもた。どうしよう!」

だけど「ごめん」って言われへんねん。屈折しているから。長い沈黙の後で山椒魚が聞きます。

「お前、今、何考えてんねん?」すると蛙が「今でもお前の事、怒っている訳じゃないんだ。」

というところで終わる小説。これが最後の行。何か胸に残りませんか? 20歳の時の作品。これで賞を得て、一躍文壇のスター。単行本で出ていますが、本物を読む方が、はるかにおもろいと思います。

さだまさしが訪問する2年ほど前に『井伏鱒二全集』が出ました。全20巻。その第1巻の1作目が『山椒魚』なのですが、なんと、ラストが替わっているんです! 最後の、胸にジーンと残るあのセリフが削除されて「無い!」処女作で賞を取った作品。代表作・出世作ですよ。それを、書いて70年後に書き替えてる! 作品、書き替えていいんですか?!

さだまさしがどうしても聞きたかった事が1つ、それは「なぜ書き替えたのか?」

「何で替えはったんですか? あのラストがあって、文壇デビューしたようなものなのに。なぜ?」

そしたら「何で替えたって、だってあれじゃ、出られないじゃないか。かわいそうに思わんか?」

「いや、あそこで出たら、『山椒魚』の作品は完結しないじゃないですか。出られないからズシッと来て『山椒魚』じゃないですか。私は出られないという結末のゆえに、色んな事を学びました。」

「出られなくていいのか? 自分が山椒魚だったら、そう言えるか? 出られなかったらアカンやろ。やっぱり出してあげなくちゃ。」

70年前に自分が書いた作品の、架空の主人公の身の上を憐れんで、「あんな筋、書かんといったら良かった…」と悔やんでいる井伏鱒二。

「あれは、できたら最初から最後まで、全部書き直したいと思っている作品なんだ。」
それを聞きながら、さだまさしが泣いている。

というエッセイを読んだ時に、元建設課のトップは「これは神の御心に違いない。私は公務員で、初めは理想に燃えて清い生き方をしようと思っていたけど、時間が経って世の渡り方を覚え、人として首を傾げるような事もやってしまった。そして、とうとう出口から出られなくなって、又メ又メした得体の知れない気持ち悪い存在になり、自分で罪をどうしたらいいか分からない。この私に神は『だって、出られなかったらかわいそうだろ。出してやらないとダメだろ』と。私をご覧になった神は、『又メ又メして気持ち悪い罪人!』じゃなくて、『わたしは、あなたをそこから出してやらないとダメだと考えているんだ』と言って下さっているに違いない。」

自分でも軽蔑するような事をやめる事ができずずっと続けて行くと、人生を軽蔑するだけじゃなくて、やめる事ができない自分自身を軽蔑するようになります。「俺なんかどうなったっていい!」「俺なんかいなくなってもいい!」やけくそになりますが、神は私たちを全く別の見方でご覧になっている。
「罪のぬかるみの中から出してやらなければ、かわいそうじゃないか。」

I テモテ 2:6 キリストは、すべての人の贖い(あがない)の代価として、ご自分を与えてくださいました。これは、定められた時になされた証しです。

「罪には必ず裁きがある」と言いましたが、裁きのない赦しはフィクションの赦しであって、本当の赦しではありません。罪は必ず罰を受けなければならないのです。
その罰を、私に代わって、全く罪のないイエス・キリストが十字架の上で引き受けて下さいました。罪に対しては罰を下す正義と、罪人に対しては赦しを与える愛を、いちにのさんで両立させる事のできる唯一の道。それは、正しいイエス・キリストが、私の身代わりに裁かれるという事だったので。

贖いとは買い戻す事。私を神の元に戻すために、キリストがご自分の命で買い戻して下さいました。つまり、あなたの命の値札には、イエス・キリストの命の価値が書き込まれているのです。キリストが代わりに死んで下さるほどの人、それがあなたです。これ以上に大きな愛はありません。

このお方は十字架の上で死んで下さっただけでなく、墓に葬られ、3日目に復活なさいました。復活した今、天で何をなさっているのか?

I テモテ 2:5 神は唯一です。神と人との間の仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです。

神と人との間の仲介者となって、私に代わって、私を弁護して下さい。自分で自分を聖くする事はできません。「立派な行いをする事によって罪が赦される」という考えがありますが、これから立派な行いをして、既にしてしまった事は、どうやって消す事ができますか? どんな行いも人の罪を消す事はできません。

罪には必ず償いが必要です。キリストがその償いをし、よみがえって、キリストを信じる人を神の前に推薦して下さい。「父なる神様、彼はわたしを信じました。わたしの贖いの代価を受け取りました。あなたがご覧になっても非の打ち所がない者として受け入れてあげて下さい。彼が生まれてからキリストを信じるまでに犯した全ての罪だけでなく、信じて以後、将来犯す全ての罪を含めて、わたしが彼の贖いをしましたから。どうぞ、わたしに免じて、彼を赦して下さい」と推薦して下さい。

このキリストの推薦が肉声で聞こえたら、どんなにいいかと思う時がありますよ。

ところで、私は6月に本を出版いたします。買って下さい。『生きる勇気と聖書の力』。13年前の2006年に出した本ですが絶版状態で、中古市場で私も手が出ないような値段で売られているという事で、是非読んで頂きたく、新たに書き直して色々付け加えました。その前書きに書いている事を、少し紹介させて頂きます。

私は格闘技が大好き。ボクシングが好きなんですね。昔、モハメド・アリ/カシアス・クレイの大ファンでした。彼はよく嘘をつくけど、オリンピックのゴールドメダリスト。金メダルを取って帰国し、あるレストランで席に付いた時、「そこは白人の席だ。どけ。」まだ人種差別が残っていて、ゴールドメダリストでも「どけ。」彼は橋の上に走って行って、金メダルを川に投げ捨てた。「オレは悔しかった!」ただ後に、単に紛失だったと。ただ失くしたのを話を盛って。

試合の前は思い切り大口叩く。“ほら吹きクレイ”と呼ばれました。途中でモハメド・アリに名前を変えましたが。彼はヘビー級のボクサーで19回も防衛。これ、すごいですよ! 具志堅でも13回。考えられない事です。だけど3回倒されています。

モハメド・アリを倒した3人のボクサーの1人目はフレイジャー。彼はアリを倒したけど、アリはカムバックして彼と2回試合して2回とも倒しました。その次ノートン。彼はアリと戦って、アリの顎を割りました。グローブ着けてるのに顎が割れた。アリは倒され・治療し・カムバックして、彼を2回倒しました。最後はスピクス。25歳。アリは36歳。ピークを過ぎているので負けますが、カムバックして倒した。

彼は嘘が多いけど、皆しびれるんです。倒されても、またカムバックするから。その時、前よりも数倍強くなっているから。どれだけ強くなってくるか分からへんから、倒した奴は皆恐れたと。大きな挫折や大失敗をしたら、粉々に砕けて「もう無理だ」となってしまう人が多い。アリは3回倒されて、5回カムバックして勝っている。彼は特別に強力な精神力の持ち主だったから、それが出来たのでしょうか? 違います。同じ人間。

何が違うかという、アンジェロ・ダンディというトレーナーがいた事。この人は『あしたのジョー』での丹下段平(たんげ だんぺい)ですよ。彼は今までに世界チャンピオンを15人作っている名伯楽。負けた時、なぜ負けたか分析して相手の弱点を見つける。そして、勝つために次どんな戦い方をしたらいいのか・そのためにどんなトレーニングをしたらいいのかを緻密に計算して、勝算が十分になってから挑戦させる。根拠もないのに、ただがむしゃらに「悔しい! もう一遍やったるわ」ではない。

1人で戦うのではなく、勝つ方法を知り尽くしているトレーナーが寄り添って励ましていた。自分の力に頼ってカムバックしたのではなく、ボクシングと、試合の持って行き方を知り尽くした名伯楽の知恵・トレーニング・付き添いによって、もう1度挑戦する事ができたんです。

どんな人でも、死を迎えた時はノックアウト。でも、十字架で1度死んだ方、死からカムバックして3日目によみがえった方は、死をものともしない。

全知全能の神が人となって来られた方。人となられたのは、あなたが人だから。なので、あなたの弱さをよく知っておられます。

